

2012年度受託研究概要報告

広告塔のデザイン制作

研究メンバー

赤崎正一 デザイン学部ビジュアルデザイン学科教授
萩原こまき デザイン学部ビジュアルデザイン学科実習助手

委託者

株式会社 精研

研究概要

「株式会社 精研」からの依頼内容は、2013年9月竣工の豊中事業所社屋ビルの屋上に設置する広告塔のデザイン案件となる。

「株式会社 精研」は空調衛生設備の開発・設計・施工を中核として幅広い技術開発を業務とする企業である。

初期のミーティングで「精研」サイドからは以下の各項がデザイン依頼の条件として提示された。

- 1) デザインの要素は社名ロゴとマークを主体とする。
- 2) アイデンティティ・カラーである濃紺を色彩計画の主体とする。
- 3) 社外への広報機能とともに全社員個人個人に会社のアイデンティティ認識を高めるよう機能するもの。
- 4) 敷地東側に隣接してほぼ南北に走る阪神高速11号池田線を通行する車両からの高速状態での視認性をも確保する。
- 5) 敷地東北東方向約750メートルの距離にある阪急宝塚線「岡町」駅のホーム上からの視認性も考慮する。

上記の条件について学科メンバー（赤崎+萩原）で協議を第1次プレゼン案を提示した。

第1次プレゼン案（6パターン）はあえて上記要求条件をそのままストレートに解釈したものである。

その後、プレゼン協議の過程で何らかのビジュアル・イメージを付加することでデザインを修正することが決定された。デザイン・サイドとしてさまざまな試行の結果、第2次プレゼン案が提示された。

第2次プレゼン案（5パターン）で導入されたドット・パターンは「株式会社 精研」が環境開発企業であ

ることから発想された水や空気の流動をイメージしたものである。

さらにデザインの微調整を加えて納品案が作成された。

研究成果

今後のビジュアルデザイン学科として研究・教育の導入の計画されている「環境グラフィックス」の領域に属する案件として重要な実現例となった。とりわけ第2次プレゼン案で導入したドット・パターンはスタディ段階で80種ほどの素材パターンを学科OBメンバーの作業サポートでコンピュータによるイメージ生成の研究として重要な成果を得ることとなった。

当初提示されたデザインファクターの条件は、操作しうる幅の狭い確定的なものであったが、そのような条件の枠の中でも、かなり選択性の広いプレゼンテーションが実現できたものであると評価している。

今後こうしたサイズの大きい環境グラフィックス案件についての開発する際の一定の指標としてなりうるものが作製されたことは学科としても重要なことと判断している。

